

16. ACMRR 第1回会議 (ローマ)

1963年 1月28日～2月2日

この会議で、資源保存のための統計等記録の収集が強調せられ、漁獲、漁獲努力、生物統計について、特に遠航漁業国にその水揚に対し漁具にかかわらず、底魚トロールおよび浮魚トロール、サバ型漁類についてFAOから要請された。北大西洋の漁獲統計ワーキング・パーティーが特に強調されている。

各魚種分類学、漁業と海区につき総括文献の作成、魚探等の生物学的数量査定のための、測器方法などの標準化と、比較検定が特に強調せられた。1966～67年に、魚類ポピュレーションの数量分布に及ぼす環境影響に関する、世界科学会議をFAO主催でやることになった。漁業研究計画の第一優先は「ストック査定」におかれる。黒潮調査研究計画の海洋資源研究上の重要性が注目せられ、FAOがこれを支援することとなり、宇田をSpecial Rapporteurに任命した。シノプチック海洋学データと、定点海洋観測点の敏速利用について、ワーキング・グループをつくることになり、V. Brock (Convenor), M. Blackburn, J. Eggvin と宇田が任命された。特別領域の研究で推奨されたのは、(a)血精学的サブポピュレーション固定法、(b)海洋資源改善、(c)海洋生物群聚の力学モデル(環境因子を計算に入れ、全 trophic Level を通じての生産力の力学モデル)である。

次回会合1964年2月10日(ICNAF環境シンポジウム終る)と、IOOオ3回会議の間に約1週間ある予定で、それまで、議長は引つづき Dr. A. W. H. Needler, 副議長は Dr. C. E. Lucas (Rapporteur) 及び Prof. M. UDA が再選された。それまで諸宿題をワーキング・グループや、特命ラポルターがつくって出すことになる。

(宇田道隆記)